

看護



青い森

ナース
センター
だより

vol.102

発行日
2019.1.5

■発行/ 公益社団法人 青森県看護協会 ■編集/ 広報出版委員会
■住所/ 青森市中央三丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 TEL (017)723-2857 FAX (017)735-3836
URL <http://egao-park.net> E-mail ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp

平成30年度 会員数 8,653人

保健師 267人 看護師 7,678人
助産師 313人 准看護師 395人
(H30.12.11現在)

CONTENTS

02 新春の挨拶

03 第47回 青森県看護学会

04 高校生一日看護体験

06 研修報告

08 支部だより

- 東青支部 ● 中弘南黒支部
- 三八支部 ● 西北五支部
- 下北支部 ● 上十三支部

11 委員会だより
医療・看護安全委員会から

12 ナースセンターだより

15 受講料の納入・新規入会について
看護の日「忘れられない看護エピソード」

16 災害見舞金についてのご報告
各種お知らせ等



新春の挨拶

青森県看護協会会長 梶谷京子



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には健やかで穏やかな新春をお迎えのことと、心からお慶びを申し上げます。

また、皆様には日頃から青森県看護協会の事業運営に、御理解と御協力をいただき改めて感謝申し上げます。お陰様で平成30年度事業は順調に進捗し、まとめの段階に入っております。

今年の干支はいのししです。いのししの縁起について猪突猛進は良く言われますが、独立心が旺盛で義理人情に厚いなどが言われているようです。5月には新元号が示され、オリンピック前年として飛躍する一年になると思われ、私達も目標に向かい堅実に邁進して参りましょう。

会長に就任し半年が過ぎます。臨床現場から看護協会の所属となり組織が変われば進め方が変わるのとは当然のことです。

本会の目的を達成するために、定款の6事業に沿って今年度は4つの重点項目に取り組んでいます。その重点項目を実践するために、4つの職能委員会と8つの常任委員会、そして6つの支部を組織して活動しています。この活動が有機的であるためには、情報を基に自らの守備範囲において責任と権限を持って推進することが求められ、要所の役員が役割を深く認識し務めることが重要になります。

組織運営や事業展開をする場合、基本となるのが

組織であり日本看護協会が目的を遂行するためにどのように組織化を図っているか確認しつつ、本会の組織強化を肌で感じています。

例えば日本看護協会が事業を推進するために人材育成の研修を立案したとします。研修について本会も看護現場も気付かなければ、本県の事業は滞滞することになります。日本看護協会と本会、看護現場が三位一体とならなければ事業は展開できません。手法は違えども目指すことは同じであり、その認識のうえで双方がアンテナを高く張る必要があります。

目標を達成するために、ヒト・モノ・カネなどの資源を有効に活用した組織構造と、適切な人員配置や編成を行い、縦糸と横糸が必要に応じて織りなすことで組織力を発揮できるよう進めたいと思います。

最後になりますが、協会職員一同、会員の皆様のお役に立てるように、また協会運営につきましても役員及び委員の方々のご支援をいただき活発な看護協会を目指したいと考えています。今後ともご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。



ナース必読!!

むつ市在住の看護師、川上美代さんの本をご紹介します。



著者は29歳の若さで胸腰椎移行部脊髄硬膜外膿瘍を患い車いす生活となった。この時5歳と出生間もない乳児の母でもあったのだ。

車いすで看護師として働く選択をした著者は、周囲の助けを得ながら時に涙し狼狽しながら、自身の看護観を確立し体現していく。筆者の「生きる道」を実に潔くユーモア溢れるタッチで書き記している。

私は、自身の看護体験から「頑張れ」という言葉を決して発しないようにしてきた。この本を読み終えた今、自然と言葉が漏れた。「がんばれわたし!」

ナースセンター相談員 豊木利志子



メインテーマ

今、共に探ろう、未来の看護の可能性

第47回 青森県看護学会開催

開会式

平成30年11月10日第47回青森県看護学会が参加者約630人のもと開催されました。青森県看護協会 榎谷京子会長の挨拶で開会となり、特別講演のほか口演8演題、示説4演題が発表されました。



青森県看護協会 榎谷京子会長



会場の様子

特別講演



福井トシ子氏

特別講演では、公益社団法人日本看護協会福井トシ子会長から「いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護」を実践するための看護基礎教育について講演がありました。

日本看護協会の将来ビジョンを踏まえ、看護職に期待される役割や機能から、看護基礎教育における取り組みを話されました。複雑な状況にある患者が急増する中では、個別性が高く、より総合的な看護が必要であり、多様性や複雑性に対応した看護を創造するために教育の強化が不可欠であると述べられました。

将来を担う看護師に求められる能力として、対象の生活に即したニーズをとらえる能力、症状や徴候などからアセスメントする能力などを挙げ、看護の質向上に尽力していくと熱く語られました。

示説発表ブース



常任委員会ブース



今回の学会メインテーマである「今、共に探ろう、未来の看護の可能性」に沿った講演、発表を聞き、今後看護職に求められるものは何かを改めて考える貴重な機会となりました。

(記：広報出版委員会 阿部舞子・近藤佐央里)

高校生一日看護体験

平成6年から看護協会で「看護の心 普及事業」の一環として行っている“高校生一日体験”。今年も38施設へ467名の高校生が参加しました。

三沢市立三沢病院

平成30年8月2日三沢市立三沢病院にて、高校生一日看護体験が開催されました。“病院において実際の看護体験をとおし、看護の心を理解するとともに看護師を志す動機づけの一助とすることを目的とする”という趣旨の下、近隣市町村の高校より15名の生徒が参加しました。

白衣に着替え、教育担当副看護局長からオリエンテーションや病院の概要を説明された後、各病棟へ移動しました。実際に患者さんと会話をしたり、手浴や足浴、車椅子移動の介助や食事の配膳などを行いました。初めは緊張のせいか硬い表情をしていましたが、患者さんとの触れ合いや部署指導者の優しい声かけのおかげで、だんだんと笑顔が見られるようになっていきました。

午後は院内見学後、看護師になるための学校について教育担当副看護局長から説明を受けました。看護師養成所の種類や国家試験までの流れを資料を用いながらの説明を受け、真剣な表情で聞き入っていました。最後の感想発表では、「普段できない体験をさせてもらいました。看護師さんの仕事が少しわかったような気がします。」「看護師さんとの会話で患者さんが笑顔になっているのを見て、看護師さんのコミュニケーション能力はすごいと思いました。」「緊張したけど、患者さんからありがとうと言われてとても嬉しかったです。」「看護師になろうという気持ちが強くなりました。頑張って勉強したいです。」といった言葉が聞かれました。今回の体験を通し、看護の道を目指す高校生が増え、将来同僚として一緒に働けることを願います。
(記：阿部舞子)



短い時間しか患者さんと接することができなかったけど、最後にありがとうと感謝の言葉をかけてもらえてうれしかったです。

看護師の仕事を近くで見る貴重な体験が出来て良かったです。

一日体験に参加した
高校生から寄せられた
お礼文より



軽い気持ちで看護の仕事をしてはいけなかったことを改めて感じました。一つのミスで患者さんの命に関わることを知り命の重みを知りました。今日の看護体験で体験した仕事をしていると、患者さんに感謝の言葉をもらい、看護の仕事は大変な部分もたくさんあると思うけどとてもやりがいのある仕事だと思いました。

弘前記念病院

副看護師長 伊藤 愛

9:30

佐々木院長のあいさつ

一戸看護部長より
“看護の仕事”について
の講義 ▶



伊藤副看護師長

10:50

病院内見学



リハビリテーション科



臨床検査室



高気圧酸素療法室



放射線科 (MRI)

11:20

感染防止についての説明

感染管理認定看護師
根井室長による研修 ▶



体験を通し
感動しました

貴重な体験が
できました



12:00

13:00

昼食・休憩

13:30

看護体験



△年前に一日体験に参加していた伊藤副看護師長が
今回は看護師になって指導の立場へ



15:00

懇親会

平成30年8月10日弘前記念病院にて高校生を対象に一日看護体験指導を担当させていただきました。初めて着る白衣に興奮しながら目を輝かせている彼女達を見て、昔の自分を思い出していました。

当時高校生だった私は、将来について漠然と考えており、友人に誘われる形で高校生一日看護体験へ参加しました。緊張しながら病院の受付を通り、初めて白衣を着用した時の興奮は今でも鮮明に覚えています。

初めての血圧測定でマンシエットを患者様へ巻いたときのぎこちなさ、清潔援助では人の身体に触れる事へ対してどこか恐れ多いような気持ちがありました。そして何より、おっかなびっくりでお世辞にも上手とはいえない所作で臥床患者様の洗髪をした時、「ああ、あずましい」と言われた言葉に、素直に喜ばずに戸惑ってしまいました。そんな私に気付いた当時の指導者に「本当に、あずましかつたんだよ。患者さんの顔見てみて。それにきっと、この人を一生懸命きれいにしようっていうのが

伝わってるんだよ。全部ひっくるめて、あずましかつたんだよ。」と言われた事も久しぶりに思い出しました。

今回の実習でも車いすの患者様を移送したとき、うまく声かけができなかったと言った学生がいましたが、声をかけられた患者様の表情はとても穏やかなものでした。傍にいた私からみても「この人を安全に運ぼう。」という思いが感じ取れ、「看護ってこういうことだよな。」という気持ちになり、当時、指導者として接して下さった方もこんな気持ちでいたのだろうか、自然と私も当時の指導者に言われた言葉を彼女達へかけていました。

今回彼女達と関わった事で気付かされる事、得られたものが多くありました。高校生一日看護体験は参加者だけではなく、指導者側にとっても有意義なものだと実感しました。

最後にこの体験が未来の看護師誕生のきっかけになれば幸いです。

(取材担当：竹内和子)

保健師職能
助産師職能
合同企画



地域母子保健に関する意見交換会を開催しました!

青森県看護協会保健師職能委員会と助産師職能委員会では、昨年に引き続き平成30年9月20日に、「地域母子保健に関する意見交換会」を青森県こどもみらい課と共催で開催しました。今年は虐待予防のための「妊娠期からの切れ目のない支援」の重要性を踏まえ、地域母子保健活動における保健師や助産師の役割を検討し、連携をさらに深めることを目的に東京大学大学院教授の講演や弘前児童相談所次長からの話題提供、そしてグループワークを行いました。



★講演 包括ケアシステムにおける虐待予防のための
妊娠期からの多職種連携

★講師 東京大学大学院医学系 健康科学・看護学専攻
家族看護学分野 教授 上別府 圭子氏

上別府教授から産後うつ病のリスクとEPDSの活用について、精神障害と母子相互作用への影響などのお話をいただきました。EPDSは日頃から使用していますが、妊娠期から活用してもよいこと、それぞれの質問項目のリスクについて、また、得点の高い方への2次質問の時のやりとりの方法も大切であると学びました。周産期に関わっていく上で、この時期は個人差やおかれている状況や環境にも左右されやすく、個人のライフサイクルの中でもストレスの高い危機的な時期、家族の形成期であるという不安定な面を持ち合わせていることを念頭におき、妊娠期から着目したケアが大事であると学びました。

★話題提供★

話題提供は、「虐待予防のための多職種連携の現状」をテーマに、弘前児童相談所 次長 山本菜穂子氏からお話をいただきました。

多職種連携の“ツボ”は、関係機関ができることを持ち寄って、実効性のある対策を検討するために「お互いの限界を知る」ことであり、それぞれの機関の立場が違うことを理解する必要があると感じました。話題提供の中では、児童相談所の役割や青森県要保護児童対策地域協議会の実施状況などの説明に加えて、事例を通した多職種連携の現状について具体的な紹介があり、非常にわかりやすく、今後の多職種連携を行う上で参考になる内容でした。今後、単独機関で対応に困った時や児童虐待が疑われる場合には、児童相談所あるいは関係機関と顔の見える連携を意識し、より実効性のある対応が検討できる体制整備に努めていきたいと思いました。



★グループワーク★

グループワークではテーマを「虐待予防のための妊娠期からの多職種連携」とし、課題と好事例をあげてもらい、地域別にそれぞれ発表してもらいました。最後に県健康福祉部こどもみらい課の深塚家庭支援グループマネージャーより講評をいただきました。

今後も青森県における子育て世代の母子包括ケアシステムの構築に繋げることを目指し、青森県看護協会では青森県と連携を図りながら取り組んでいきたいと思ひます。

(記：保健師職能委員長 山田淑子)
助産師職能委員 鳴海陽子)

「平成30年度病院から繋ぐ地域包括ケア看護実践者育成研修会」を開催しています

【期間】平成30年10月19日～平成31年2月8日

標記研修会は、平成27年から3年間実施されました弘前大学の「つがるブランド地域先導ナース育成事業」を引き継ぎ、県内病院勤務の看護職を対象として開催しています。この研修会の特徴は、講義(約6日間)による知識の獲得と地域の施設(地域包括支援センター、病院地域連携室、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション)での見学実習(5日間)、そして自施設に入院した事例を経過に沿ってケアし退院後の家庭訪問までを実践する事例検討(12月から約2か月間)の3つのプログラムで構成されている点です。この3つのプログラムに沿って、おおよそ4か月間、入院時から退院後の生活までを見据えた看護実践を学びます。弘前

大学で先駆的に行われた「つがるブランドナース」のノウハウを活かし、実践者を育成していく研修会です。

今年度は県内6圏域から36名が受講し、現在(11月の中旬に原稿書いてます)は、地域の施設で実習させていただいている最中。広報誌がお手元に届く頃は、事例の中間報告の準備をしているところでしょうか。11月28日には、施設での実習が終了し、講義の後に実習報告と事例検討のためのオリエンテーションの予定を組んでいます。ここだけの話、来年度も開催する予定となっています。開催案内を是非お見逃しなく。

また、研修会の重要なプログラムの1つである施設実習にご協力いただき、



初日の講義の様子



在宅における褥瘡ケアの演習の様子

演習を受け入れてくださった6圏域の地域包括支援センター16カ所、病院地域連携室9施設、居宅介護支援事業所15カ所、訪問看護ステーション18カ所の皆様へ、この場を借りて感謝申し上げます。

「看護管理者および認定看護師のための看護師特定行為研修の理解と活用」研修会と交流会を開催しました

【日時】平成30年10月13日(土) 【会場】県民福祉プラザ4階

標記研修会は午前・午後の2部構成で計画し、午前は日本看護協会 川本常任理事による「特定行為に係る看護師の研修制度について」と題して、日本看護協会の研修制度への期待、研修センターにおける研修の特徴、研修制度推進のための体制整備・看護管理者の役割などの講義。午後は特定行為研修を修了し自施設で活躍している認定看護師を含む4名により「認定看護師の地域での活動について」をテーマに報告会を開催しました。報告会に続き、圏域毎に編成した看護管理者と認定看護師のグループで「ネットワークづくり」「地域活動について私たちができること」「認定看護師への期待」などをテーマに話し合い、いくつかのグルー

プからの発表で情報交換、意見・要望・感想の共有をしました。

今回は、看護管理者(次席を含め)16名、認定看護師20名他、約60名が参加し、『最新情報が得られた』『特定行為研修の目的などが理解できた』『認定看護師が分野を超えて集まる機会を作ってほしい』『管理者と意見交換できたことは大きな意味があった』『認定看護師の活動の場を拡げてほしいと感じた』などの意見・感想が多く聞かれ、これからも続けていくしかない、と改めて決意する交流会となりました。

「第2回」の開催の際は、今回に引き続きの方も初めての方も是非参加して、交流を深めてください。ちなみに、



看護管理者と認定看護師の交流



講師の川本先生



報告会座長の村上先生

今回の交流会で「男性認定看護師の会」が静かに発足したそうです(会員&世話役募集中)。

アンケート回答へのお礼

教育研修課より、平成25年度から29年度にかけて実習指導者講習会を受講された方々および所属施設の看護部門さまへ、アンケート調査を行いました。ご多忙中ご協力いただき、この場を借りて感謝申し上げます。分析結果につきましては今後の講習会がより一層皆様にとって有益なものとなるよう企画・運営に活用していきたいと考えております。

併せて、看護師職能委員会Ⅰの「看護師のクリニカルリーダーに関する実態調査」にご協力いただきましたことについて、お礼申し上げます。調査結果は、今年度の教育計画に企画しました「自施設のリーダーを作成しよう研修会」に繋げ、現在23施設の方々が受講し、来年度以降からのリーダー作成と運用を目指して頑張っています。いずれもアンケートの集計結果についてはホームページ等で公表してまいりたいと考えております。

(記：青森県看護協会 教育研修課長 岸田公子)

東青支部だより

平成30年度 第2回学習会

テーマ：「地域包括ケアシステム推進における看護職の役割を考える」
～看看連携・多職種連携支援を共に考えよう～

講演Ⅰ：「なぜ地域包括ケアシステムがクローズアップされるのか」
講師：古川 照美 氏（青森県立保健大学 健康科学部看護学科教授）

講演Ⅱ：「多職種がつながってできる看護の実際と課題」
講師：沼倉 昌洋 氏（㈱あんさん訪問看護ステーション代表取締役所長）

平成30年10月27日（土）ウェディングプラザアラスカにおいて看護職70名が参加し開催いたしました。講師からは、地域包括ケアシステムのなかでリーダーシップを発揮し、「生活の質」を高める役割が看護職に期待されていることが話され、参加者からは活発な質問が出されました。



講師と平成30年度役員です



講師の古川先生と講演に聴き入る参加者



ユーモアあふれる沼倉講師の講演の様子

アンケートでは、約90%の方がよかったですと回答しています。「高齢化社会の中で今後変わっていく看護職の役割を考えることができた」「訪看の役割と実際の活動がわかった」「余命にとらわれずに速やかに連携している点が自身の意識向上になった」などのご意見を頂きました。本日学んだことを、日々の業務に活かして欲しいと思います。

（記：第一副支部長 大柳友子）

中弘南黒支部だより

平成30年度 看護研究学習会

中弘南黒支部では、平成30年10月21日（日）に看護研究学習会を開催いたしました。今年度は「看護研究を学ぼう～指導への第一歩～」をテーマに、弘前大学大学院保健学研究科准教授の藤田あけみ氏を講師に迎え、35名が参加して行われました。

主に看護研究の指導をする立場にある人を対象とした今回の学習会では、看護研究の意義から始まり、研究のデザイン、研究のクリティーク、看護研究における倫理的配慮、学会発表・論文投稿に向けて必要なこと、看護研究の指導の留意点などについて学びを深めました。



グループワークの様子

講義を聴講するだけでなく、随所でグループワークがあったことにより、各々が考えて意見交換して発表するなど、能動的な学びができていたと感じられました。参加者からは、「研究の進め方を具体的に知り、やる気が出た」「指導者の立場で心構えなどを教えてくださったので役立ちそ



講師の藤田あけみ先生

う」などの感想がありました。

今回の参加者の多くの方が看護研究に取り組んでいるようでしたが、学会発表の経験がある方はおりませんでした。今回の学びを看護研究の実施や指導に活かし、研究の成果をより多くの人に知ってもらえるよう、学会発表や論文投稿へとつなげていただきたいと思います。

（記：庶務係 高間木静香）

三八支部だより

第1回看護実践報告会

平成30年12月15日(土)八戸市総合福祉会館において、第1回看護実践報告会を開催しました。初めての開催であるにもかかわらず、急性期病院、回復期病院、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、看護学校など多くの施設の方に参加していただき、参加者は141名でした。

「高齢者が生活の質を維持し、地域で暮らし続けるための切れ目のない看護について考える～地域包括ケアの実現に向けて～」というテーマのもと、4施設から日頃の看護の取り組みについて事例を交えて発表して

いただきました。また、青森県内でも数少ない看護小規模多機能型居宅介護施設の方からの発表もあり、興味深い報告会であったと思います。

シンポジウムでは、座長の柏崎・吹上地区高齢者支援センター八戸医師会の尾崎景子様の進行により、実践報告をしていただいた4名のシンポジストと共に摂食嚥下の取りくみについて意見交換が行われました。2025年の超高齢社会に向けて、地域で暮らし続けられるための看護について改めて考える機会となりました。今後も地域へ看護をつなぐこと



発表の様子

ができるよう、第2回看護実践報告会開催に向け、内容を検討し、学びを深められる場にしていきたいと思っています。

(記：庶務係 中村美寿穂)



たくさんの方に来ていただきました！



報告者の皆様



おつかれさまでした。

平成30年度 第2回研修会

平成30年度第2回研修会を開催いたしました。会員及び非会員、介護職他、多数の参加があり活気ある研修会となりました。

今後も、情報共有と地域の看護の質向上に繋がる研修会を開催したいと考えております。

日時：平成30年10月20日(土) 13:30～15:30

会場：つがる市生涯学習交流センター「松の館」

テーマ：「嚥下障害の嚥下評価の実際」

～嚥下障害の基礎と評価の実際～

講師：工藤 広大 氏

(つがる西北五広域連合かなぎ病院 主任言語聴覚士)

内容：①講義 (パワーポイント資料の配布、動画の活用)

②トロミのつけ方演習

参加者：101名 (内役員12名)



演習の様子

西北五支部だより



講義の様子

【アンケート】92名の回答があり、回収率は91.1%でした。また、今後の業務に役立つ54名、とても役立つ38名と、評価できるものでした。

【参加者の声】

*動画と演習を取り入れた研修は、とても良かった、わかりやすい。

*誤嚥や訓練など知ることが出来た。

*演習などがあり、実践的で今後の業務にとても役立つと感じた。

*看護師も嚥下評価、トレーニングを行うとむせや誤嚥が減った。

*STの実際の訓練方法がわかり良かったです。他

(記：支部長 角田つね)

東通村健康まつり

平成30年11月4日、役員4名、むつ総合病院から協力員3名の7名で参加しました。血糖値測定・健康相談・お子様のナース服体験の他、今回は新たに栄養相談・フードモデル、赤ちゃん人形抱っこコーナーを設けました。



大人気の血糖値測定



看護協会のブースも行列となり、中でも血糖値測定は168名の方に参加いただき用意した備品が足りなくなる程大盛況でした！お子様のナース服体験では、お子様用の白衣の他に、支部長自ら作製したナイチンゲールの衣装が登場し、真先にナイチンゲールの衣装に向かってくるお子様もいて大人気でした。

今後、地域住民の皆様にもっと看護協

下北支部だより



会を知っていただけるよう努力してまいります。

(文：高橋善弘)



第2回下北支部研修会

12月8日、公済会館で開催され、看護職にも地域包括ケアシステムに対応する体制の構築が求められる昨今の情勢を反映し、「地域につなげた看護の症例」をテーマに5題の症例発表が行われました。

むつ総合病院で2017年から開催している「地域包括ケア病棟」についての発表は、下北地区の中核を担う総合病院とし

ての新たな取り組みとしてとても興味深いものでした。

最後に小原支部長より「オーダーメイドの退院支援、オンリーワンの支援を目指して欲しい」との講評があり、本当にその通りであると感じました。また、オンリーワンの支援を目指し悩む過程を聞く機会が持てたことにより、とても深い学びを得ることができました。各症例に対し会場からの質問があり、活発な意見



役員と発表者の皆様

交換の場となり、開催意義のある研修会となりました。(文：石倉理江)

看護ケア検討会

日時：平成30年10月27日(土) 13:30～15:30

会場：青森原燃テクノロジーセンター

テーマ：スキンケアの現状と課題

講師・座長：

木村 英子 氏 (十和田市立中央病院看護師長 皮膚・排泄ケア認定看護師)

講師・シンポジスト：

杉山 妙子 氏 (三沢市立三沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師)

南 輝美 氏 (医療法人仁泉会訪問看護ステーションえがお所長)

澤谷 玲子 氏 (社会福祉法人貴望会特別養護老人ホームなのはな苑 介護・看護部長)

小雨の降る中、看護職80名の参加で開催されました。

4名の講師の方々から講演をいただいた後、シンポジウム形式で意見交換を行いました。



上十三役員と講師のみなさん

上十三支部だより



検討会の様子

意見交換では会場から質問や感想が出され、講師の先生方から様々なスキントラブルに対して、病院・施設・在宅とそれぞれの立場で事例を通した具体的ケアや取り組みについての紹介があり、今後活用できる内容となりました。

アンケートから「支部ならではの地域の実情に沿った学習会でした。」との感想もあり、地域包括ケアにおける看護提供体制構築のために看護連携の必要性を再認識し、上十三地域の看護の質向上のため顔の見える関係づくりをしていきたいと思いました。

(記：下山美智子)

委員会だより

看護研究倫理審査委員会

看護研究倫理審査委員会は、今年度から活動が開始となりました。大学側から2名と病院側から2名の計4名の委員で、年3回(4月、8月、12月)開催されました。事務局を通じて、7件の研究倫理審査申請が寄せられました。多くは、看護協会からの申請で、看護労働環境対策委員会、看護師職能委員会Ⅰ・Ⅱ、青森県ナースセンター、保健師職能委員会、教育研修課からで、1件は県内の看護大学から

このコーナーでは毎回各委員会からのメッセージを掲載しています。



の申請もありました。各委員会においては、「承認」「条件付き承認」「不承認」「再審査」などの結果が審議されますが、その後、申請のあった研究が「承認」になるまでは、委員間でのメール会議となりました。

各支部におかれましては、研究倫理審査ご希望の会員がおられましたら事務局を通じてお付けします。青森県の看護研究の質向上のため、審査は慎重かつ迅速に対応して参るよう努力いたします。

(記：看護研究倫理審査委員会 委員長 工藤せい子)

学会委員会

学会委員会は、青森県看護学会の運営に関わる活動を行っており、6名の委員で構成されています。主に、青森県看護学会の企画・運営、募集演題の選考とプログラムの検討、座長・協力員の選考、アンケート調査と評価などを行っています。

11月10日(土)に行われた第47回青森県看護学会も約630名の参加があり、盛況のうちに無事終了することができました。学会成功のためにご協力いただき感謝申し上げます。

すでに来年度の学会に向けて活動を開始しており、みんなが参加して良かったと思える学会を目指し、今年以上に充実した内容をお届けしたいと思っています。



委員会の様子

会員の皆様！日頃取り組んでいる看護研究の成果を発表してみませんか？皆様の演題のお申し込みをお待ちしております。

(記：学会委員会 委員長 三上ふみ子)

医療・看護安全委員会から No.26

年に2回「青森県医療安全管理者交流会」を開催しています。

平成30年度は5月25日に「青森県地域医療安全ネットワーク」をテーマに活動報告や各圏域でのグループワークを行いました。

12月7日には、「身体拘束を考える」をテーマに八戸市立市民病院での「入院による生活機能障害を最小限にする看護の取り組みと安全管理」について講演の後、グループワークで

- ①医療安全管理者として、身体拘束の実施プロセスを把握できているか
- ②自施設での身体拘束の現状について把握できているか
- ③行動制限最小化に向けての課題と取り組みについて

意見交換を行いました。

日々の疑問や課題へのヒントと実践的な活動につながるパワーを受け、看護の質・医療安全の質向上に繋がっていきたいと思います。

(記：十和田市立中央病院 三浦里美)



第2回 医療安全管理者交流会の様子(12月7日開催)

青森県ナースセンターだより 116

青森県ナースセンター研修報告

ナースセンターでは再就業支援研修として、今年度も様々な研修を開催いたしました。

就業にブランクのある方、不安をお持ちの方に技術の学び直しや復職のお手伝いをいたします。

来年度も研修の企画をしておりますので、ぜひご参加ください。



1 最新の電子カルテを体験しよう

平成30年7月18日(水)県民福祉プラザにて、青森電子計算センター様のご協力をいただき、開催しました。

参加者は12名で、実際に医療機関で使用されている電子カルテのソフトを使って講義を受け、更に、パソコンを操作しながら、入院から退院までの一連の業務を想定した演習を行いました。

参加者からは、短時間の研修でしたが、体験によって業務をイメージすることができ、就業先の選択肢も広がったと感想をいただきました。



2 静脈注射学び直し研修会

平成30年9月13日(木)青森県立保健大学で開催しました。

注射に不安やブランクがある方など、24名の参加となりました。午前の講義からはじまり、午後は10台の腕モデルを使用して実技の演習を行いました。

参加者の感想

- 感覚を取り戻すことが出来て良かった
- 他の参加者とコミュニケーションが取れて良かった
- 最新の医療品を教えてもらえて良かった
- 臨床から離れていたのが不安だったが、日々進化している医療にとっても勉強になりました
- 指導者の方が優しく丁寧でとても学びやすかった
- ゆっくりとした進み具合でよく理解できた



3 セカンドキャリアセミナー

平成30年10月11日(木)青森国際ホテルにおいて、求職中の方や定年退職予定の方など計22名の参加で開催しました。

みちのく銀行の方を講師に迎え「年金と生活設計」と題して講義をしていただき、体験談発表者の對馬さんに、「第二の看護人生を歩んで」という内容で、ご自身の経験をお話いただきました。

ティータイムをしながらの意見交流会では、参加者の皆さんの積極的な発言があり、就業への意欲に繋がるとても有意義な時間でした。



体験談発表者の對馬さん

4 輸液ポンプ・シリンジポンプ研修会

平成30年10月31日(水)県民福祉プラザにおいて、テルモ株式会社の方を講師に迎え、参加者17名で開催しました。

輸液ポンプ・シリンジポンプについての正しい知識と操作のポイントなど最新の機器を使用しながら実施しました。参加者は講師の説明にメモを取り、積極的に実習に取り組んでいました。



登録のお願い

eナースセンター登録

求職・求人登録はこちら

届出登録

離職時の登録はこちら



退職セットのご案内

退職される方々に届出をお願いするために、パンフレットや届出票などをセットにして病院にお渡しします。どうぞ、ご利用ください。
お手元に届かない方、ご希望の方はナースセンターまでご連絡ください。



ナースセンターでマッチングした求人施設と求職者の紹介

医療法人青森眼科皮膚科クリニック

ナースセンターから紹介された岩崎さんはいつも笑顔で優しく患者さんに接してくれています。

岩崎さんは今年3月に青森県立保健大学を卒業されて8月より当クリニックへ勤務し4ヶ月が過ぎました。大学では、たくさんの事を学んでいますが実践の場では不安も多かったと思います。当クリニックは小児から高齢の方と患者層の幅が広く対応の仕方に初めは戸惑ったと思いますが、いろんな事にも一生懸命取り組む姿勢は高く評価しております。こちらの指導に対しても素直に対応してくれて学ぼうとする姿勢は素晴らしいと思います。

当クリニックは眼科と皮膚科があり、県内でも数少ない眼科入院施設も備えた有床診療所であり、手術に関しては日帰りによる手術対応だけではなく、遠方からの患

者・ご家族様にも宿泊の上、手術を安心して受けられる設備を整えております。最新の外来医療設備・手術機器を取り揃え、医療サービスを安心してうけられるよう経験豊富なスタッフ(看護師・視能訓練士・医療事務員)も多数在籍しております。

岩崎さんには主に眼科の勉強をしながら診療介助や点眼と次回の来院の打ち合わせ、そして手術に関しても手洗いをし機械出しなどを頑張って貰っております。

なんでもわからない事は遠慮せず聞いてほしいですね!!覚える事がたくさんありますが、困難を乗り越え職員が成長し働き続けられるクリニックを目指し、新人ナースの教育に務めていきます。

師長 石岡ゆかり

ナースセンターを利用して

看護師 岩崎 奈津

私は再就職先を探している時に、自分に合っている所やこの職場はどんなところなのかという不安があり悩んでいました。その時に大学の卒業式に来ていただいた看護協会の方の「もし、地元に戻ってくることや、新しく働き始めたいときには、看護協会に来てください。」という言葉思い出し、足を運びました。ナースセンターの方が1対1で親身になって話を聞いて下さり、自分がどんな職場で働きたいのか、自分に合う職場を一緒に考え、アドバイスを頂きました。

私は、専門性を高められる職場を探しており、青森眼科皮膚科クリニックを志望していたのですが、その時には求人は終了してしまっていました。しかし、ナースセンターの相談員の方が病院に掛け合って下さり、現在働いている青森眼科皮膚科クリニックに入職することが出来ました。

青森眼科皮膚科クリニックで働き始めて、まだ4ヶ月ですが、経験豊富な先輩看護師さんに手厚く指導していただきながら、患者さんに目薬の使い方を指導することや、治療や経過の説明をしています。また、週2回ある手術では、外回りや機械出しの仕事を行っています。手術の仕事は不安だらけだったのですが、先輩方に支えられ、失敗も多いですが、少しずつ覚えることができました。また、白内障の手術後の患者さんの「目が良く見えるようになった」という言葉を聞くと嬉しくなり、充実した毎日を送っています。

まだ覚えることも多いですが、患者さんとそのご家族とコミュニケーションをとりながら眼科領域の知識を深め、自分自身のレベルアップにつなげたいと思います。



2019年度(平成31年度)から受講料の納入がコンビニ収納になります

次年度から受講料の納入方法がコンビニ収納となります。研修毎に各受講者に個別に収納用紙を発行いたしますので、お近くのコンビニから受講料を納入してください。手数料は無料です。

なお、施設でとりまとめのうえ、銀行振込での納入も選択できます(銀行振込手数料は施設様負担となります)。



詳細については、後日あらためて文書にてご案内いたします。



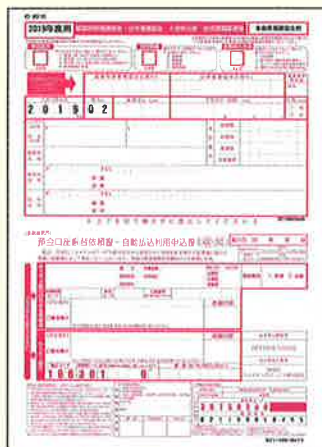
2019年度(平成31年度)の新規入会(再入会)について

来年度から新規に入会される方、または以前入会されていて再入会される方は「入会申込書/会員情報変更届」をご提出ください。

また、日本看護協会ホームページからもお手続きできますので、ご利用ください。

「入会申込書/会員情報変更届」のご請求や不明点等のお問い合わせは青森県看護協会 総務課までお願いします。

TEL:017-723-2857



看護の日「忘れられない看護エピソード」受賞のお知らせ



今年度、日本看護協会が開催した第8回「忘れられない看護エピソード」において、当県から「八戸市在住の 磯沼 チヨ 様」が入選されましたので、以下にご紹介いたします。

おにぎり

「ばあちゃん、これ食っていいよ」と少年がおばあさんに小さなおにぎり1個を差し出しました。おばあさんは驚いた顔をして「Hが食べたらいよいよ」。少年は「さっき1個食べたからいいよ。ばあちゃん、昼ご飯まだだよ」。その光景を見た私は涙ぐむばかりでした。

50年も前の、私が勤めて2年目の春の話です。外科病棟勤務でした。少年は小学校に入学したばかりで、八戸市からディーゼルカーで2時間、それからバスで1時間ほどの山奥に住んでいるということでした。入院したときはおなかが大きく膨れあがり手術予定でした。

お母さんは病気で亡くなったという。お父さんは横浜に出稼ぎに行っているの、おばあさんと2人暮らし。入院時は父親とおばあさんと3人で来ました。父親は「なかなか来られないのでよろしく」と、何度も頭を下げておりました。片道3時間はかかる道のり。来れば来たで、すぐ帰らなければならない貴重な面会です。その子はとても賢くて、さみしい顔などは見せないのです。「看護婦さん、よろしくをお願いします。僕がんばりますから」と言うのです。

私は彼を自分の子のように思い、休憩時間はそばに行き、本を読んであげたり、折り紙をして遊んだりしておりました。深夜巡回に行くとき布団をかぶって泣き声をこらえているのです。何度か抱っこもしてあげました。

次第に体力がなくなり食欲も落ちてきたので、栄養科に、ごはんを小さなおにぎりにしてもらいました。おばあさんが面会に来る日はおにぎりを食べずに取っておくのです。私が「H君食べなさいよ」と言いますと、「ばあちゃんは白いご飯を食べたことがないんだよ。僕だってそうだよ。入院して初めて白いご飯を食べたんだよ。ばあちゃんが来てても何にもあげられないので、おにぎりを残しているんだよ。ばあちゃんに食べてほしいよ」と言うのです。

みんなが貧しくとも思いやりで満ちた時代だったのかなと思います。それにしてもH君を思い出しますと、本当に心悲しくなるとともに、あんなにも慈愛にあふれた少年がいたのだと優しい気持ちになります。



災害見舞金についてのご報告

平成30年7月豪雨災害義援金

平成30年7月豪雨災害義援金について、配分先が決定いたしましたので、ご報告いたします。

配分先：広島県看護協会、岡山県看護協会、愛媛県看護協会

見舞金総額：978,284円

10月31日に「災害見舞金」として送金いたしました。上記三県の看護協会から御礼のお手紙、お電話をいただいておりますこと、併せてご報告いたします。

平成30年北海道胆振東部地震見舞金

平成30年北海道胆振東部地震により被災された皆様を支援するため募集しておりました見舞金について、多数の会員の皆様からご協力いただき深く感謝申し上げます。受付けた見舞金は11月30日に北海道看護協会へ送金いたしました。皆さまの温かいご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

見舞金総額：946,310円

2019年度(平成31年度)青森県看護協会改選役員の立候補受付について

青森県看護協会では、定款第22条、第23条及び定款細則第6条、第7条、第9条に基づき右記のとおり改選します。

これに伴い、立候補しようとする方は、正会員5名以上の推薦を受けて、総会2か月前までとなる2019年(平成31年)4月15日(月)までに青森県看護協会総務課まで届け出てください。

所定の用紙はホームページからダウンロード、または総務課までお問い合わせください。

- 第一副会長 …………… 定数 1
- 第二副会長 …………… 定数 1
- 常務理事 …………… 定数 1
- 保健師職能理事 …………… 定数 1
- 看護師職能Ⅱ理事 …………… 定数 1
- 地区理事(三八・西北五・上十三) …………… 定数 3
- 准看護師理事 …………… 定数 1
- 監事 …………… 定数 1
- 監事(保健師・助産師・看護師・准看護師以外) …………… 定数 1

2020年度日本看護協会代議員および予備代議員の立候補受付について

青森県看護協会では、以下の通り2020年度の代議員・予備代議員の選出を行います。これに伴い、立候補しようとする方は、正会員5名以上の推薦を受けて、総会2か月前までとなる2019年(平成31年)4月15日(月)までに青森県看護協会総務課まで届け出てください。

代議員：9名 ・ 予備代議員：9名

立候補に際しては、代議員としての抱負を含む立候補理由を120字以内にまとめて添付してください。

代議員についての詳細および立候補届出用紙についてはホームページをご参照いただくか、総務課までお問い合わせください。

読者の声

看護青い森いつも楽しく拝読させていただいております。101号にあった施設見学バスツアーの記事を見て、このようなツアーが開催されていることを初めて知りました。再就職を考えている人にとっても興味深い企画だと思いました。これからもいろいろな企画や活動について取り上げていってほしいです。(ペンネーム：紗々)

編集後記

青森県看護協会のホームページに柗谷会長のブログが掲載されました。青森県でこんなにも看護の活動があるのかと驚きました。恥ずかしながら協会のホームページを見る機会がなかったので、これを機に見ていきたいと思います。(三浦麻美)



信頼の技術を、信頼の医療機器・医薬品
医薬品へ。

NIPRO
www.nipro.co.jp

B S 放送・インターネットで学ぶ

テレビは 231ch、ラジオは 531ch。自宅がキャンパス。



看護師の特定行為研修
共通科目全科目(講義・演習部分)開講!!



放送大学は正規の通信制大学です。入学は年2回(4月、10月)。学位取得やキャリアアップ、生涯学習を目指す方を応援します。

